

『公害防止管理者試験 水質関係攻略テキスト』正誤表  
ISBN 978-4-274-20409-8(2007年5月発行)

頁	行	誤	正
73	表2.4 生活環境 保全に係 る項目の 水質項目	生活環境に係る被害を生ずるおそれのある17項目	生活環境に係る被害を生ずるおそれのある15項目
133	問題の解 説	懸濁粒子の大きさはろ材空隙の大きさに比べてはるかに小さいので、(2)が誤りである。	懸濁粒子がろ材に捕捉されるのはふるい分け作用と凝集作用の機構がある。ふるい分け作用だけでは空隙の径より小さい粒子は捕捉できない。
136	練習問題2 の正解	正解：(2)	正解：(4)
177	練習問題1 の問題文3 行目	フレイム原子吸光法において使用しないランプはどれか。	フレイム原子吸光法の光源部において使用しないランプはどれか。
187	練習問題1 の問題文1 行目	に希釈してBODを測定した。この試料のBOD値はおよそいくらか。	に希釈してBODを測定した。希釈試料のはじめと終わりの溶存酸素量はそれぞれ8.0mg/l, 4.0mg/l。この試料のBOD値はおよそいくらか。
193	練習問題2 の問題の 解説	大腸菌群は、 $36 \pm 1$ で8～20時間	大腸菌群は、 $36 \pm 1$ で18～20時間
329	問7	(4)ウ:適切な	(4)ウ:過小な